

哲学専攻

募集人員：修士課程15名／博士後期課程2名
 開講形態：昼夜開講 キャンパス：市ヶ谷
 主な進路：教育関係、情報通信、公務員、出版関係など



知の探究 知の根源から知の最先端へ

古代ギリシアから、近代を経て現代に至るヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリス)の哲学全般を網羅する科目群が設置されています。哲学一般、さらに、論理学、倫理学、美学・芸術学などを通じて、真善美など哲学知の根源を探究することができます。また、現象学・解釈学、心の哲学、言語哲学、科学哲学、法哲学、社会哲学、比較思想など、知の最先端の研究を通じて、現代社会の諸問題に哲学的な仕方アプローチすることができます。

昼夜開講制により、社会人院生を含む各院生は、それぞれの研究目的、スケジュールに合わせて柔軟な学習計画を立てることができます。また、留学制度や海外の大学との連携も充実しています。

「博士後期課程在籍者発表会」(写真参照)や「修士論文構想発表会」を開いています。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安孫子 信 教授	フランス哲学・フランス思想史	人間と科学技術、オーギュスト・コント、ヘルクソン研究	科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
安東 祐希 教授	数理論理学	証明論(特に演繹体系における正規化手続き)	論理学研究Ⅰ1・2
奥田 和夫 教授	古代ギリシア哲学	現在の持続的テーマはプラトンの政治哲学	古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
笠原 賢介 教授	ドイツ近・現代思想、比較文化	20世紀ドイツ哲学・思想、18世紀ドイツ思想、近代日本思想の再検討	比較思想研究Ⅰ1・2、 哲学ドイツ語研究1・2
酒井 健 教授	ジョルジュ・バタイユ研究、ゴシック文化史、西洋美術史	ジョルジュ・バタイユ研究、芸術論、西欧美術史	近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2 哲学フランス語研究1・2
菅沢 龍文 教授	カント哲学、西洋近代思想	近代ドイツ思想、カントの道徳哲学	近代倫理学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
内藤 淳 教授	法哲学	人権や憲法の基礎についての研究、進化心理学に基づく人間本性の研究	法哲学研究1・2
中釜 浩一 教授	言語哲学・科学哲学	言語哲学・科学哲学・イギリス経験論	言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2
星野 勉 教授	倫理学	ヘーゲル研究、近現代日本思想研究	近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2、 比較思想研究Ⅱ1・2
牧野 英二 教授	哲学・倫理学・感性学	多元主義的立場や可謬主義的立場から、超越論哲学と解釈学との関係をめぐる従来の見解に対する批判的再検討	超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1
山口 誠一 教授	ドイツ近現代哲学(特にヘーゲルとニーチェ)	ヘーゲルからニーチェにいたるドイツ近現代哲学	実践哲学研究Ⅰ1・2

[2018年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

内藤 淳 教授

法哲学研究

人間本性と「正しい社会」



立憲の憲法をはじめとする社会的な規範や制度の正当化根拠を探る研究を進めています。授業では、ジェレミー・ベンサムやジョン・ステュアート・ミルに代表される功利主義に関する英語の論考を精読しながら、「人間の本性とは?」「道徳に客観的基礎があるか?」「正しい社会や法のあり方とは?」といった問題を議論しています。古典的・基本的な哲学理論を踏まえつつ、ゲーム理論、進化理論などの現代的な知見も取り込んだ多角的な検討を行うのが特徴で、受講生には、広い視野に立って学問的な洞察を深めてほしいと思います。

学生・修了生の声

関口 貴太
博士後期課程 在学中



哲学・思想を、その歴史的・地理的な背景を含めて、さらに深く広く研究していきたい

学んだこと、身に付いたこと

語学力や読解力がさらに身に付いたことです。哲学専攻では、英語やドイツ語、フランス語の読解を必要とします。また、難解な哲学書や研究書を丁寧に読みます。なので、語学力と読解力が入学以前よりも身に付きました。また大学院では、自分野以外の研究をしている人も居り、社会人の方も多数在籍しています。そのため、色々な立場の人と話すことができ、より人生観が広がったと思います。

将来の目標

将来は、修士課程や博士後期課程で培った研究をさらに続けていきたいと考えています。したがって、大学院において学んだテキスト読解や討論による多面的思考を用いて、研究職に就くことが今の夢です。そのためには、ゼミや専攻内の研究発表会に積極的に参加し、学会発表や学会への論文記載を目指していきたいと考えています。

研究テーマ

問文化性の現象学研究
—後期フッサール哲学を中心に—

設置科目【修士課程】

- 言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 形而上学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 論理学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代倫理学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 実践哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 現代哲学研究Ⅰ1・2(各2)
- 科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 比較思想研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 近代西洋哲学研究Ⅰ1・2(各2)
- 近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- ヨーロッパ精神史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
- 法哲学研究1・2(各2)
- 哲学ドイツ語研究1・2(各2)
- 哲学フランス語研究1・2(各2)
- 哲学基礎研究Ⅰ/Ⅱ(各2)

設置科目【博士後期課程】

- 哲学特殊研究1/2(各2)
- 言語分析哲学特殊講義1/2(各2)
- 古代哲学史特殊講義1/2(各2)
- 論理学特殊講義1/2(各2)
- 近代倫理学史特殊講義1/2(各2)
- 実践哲学特殊講義1/2(各2)
- 近代ドイツ哲学史特殊講義1/2(各2)
- 科学哲学特殊講義1/2(各2)
- 比較思想特殊講義1/2(各2)
- 近代フランス哲学史特殊講義1/2(各2)
- 超越論哲学特殊講義1/2(各2)
- 法哲学特殊講義1/2(各2)

[2018年度] ※開講科目は年度により異なります。()=単位数

修了生の研究テーマ

- 機械論に抗うベルクソン
 - 「試論」における因果性と自由の議論を中心に—
- ジョルジュ・バタイユの言語表現について
- カントの最高善と信
 - 最高善を促進する義務の根拠
- プラトン『国家』におけるディアノイアの対象
 - 教育とのかかわり—
- デカルト哲学における神の観念の認識についての考察
- マックス・シェーラーの倫理思想における愛と人格について—自己と他者との相互性をめぐって—
- 様相論理S5における自然演繹体系とヒルベルト流体系との同索性